

(様式第2号)

議会報告会（意見交換会）実施報告書

R8 年 6 月 19 日

都城市議会議長 あて

広報広聴委員長 坂元唱子

議会報告会（意見交換会）実施要領の規定（11—イ）により、次のとおり報告します。

開催日時	R8 年 5 月 24 日（日） 14 時 00 分 ～ 16 時 00 分					
開催場所	ウエルネス交流プラザ 茶霧茶霧ギャラリー					
出席議員	坂元唱子・東裕一・岸川たかのり・黒木善寿・郡山徳博・井川真・川崎龍希・川内賢幸・中村千佐江・成合まるみか・たかだみか					
役割分担	班長	—	副班長 司会者	—	記録者	東・黒木 岸川・井川
参加人数	29 名（議員 11 名含む）					
意見交換会の種類	公民館公募型 ・ 地域テーマ型 ・ 団体公募型					
団体名	荻 里 音					
テーマ	公共交通機関について					
意見交換の概要 （主な意見・質問・要望等）	ウエルネス交流プラザで開催された「第3回 都城万博」において、市内高校生、宮崎交通株式会社、高崎観光バス株式会社、市議会議員が参加し、都城西高校の 荻 里 音 さん を中心に公共交通機関、特にバスの利用促進や課題についてグループごとに意見交換を行った。 高校生からの意見 【バスを利用しない理由について】 「本数が少なく予定が立てにくい」「利用したい時間とバスの時間が合わない」「乗り方が分からない」「時刻表や路線の見方が分からない」「自宅近くのバス停の場所が分からない」などの意見が出された。 特に、通学や雨の日、放課後に学校から図書館へ移動する際などには利用したいという声があり、生活圏内の移動手段として一定のニーズがあることが分かった。 【利用したい時間帯について】 朝の登校時間帯である7時から8時、下校や夕方の利用が多い15時から16時にニーズが集中しており、また、行き先としては学校への通学が最も多く、次いで商業施設、図書館、塾などが挙げられ、通学だけでなく、買い物や学習活動にもバスを活用したいという意見があった。					

【料金面について】

「学生にとって運賃が負担に感じる」「もっと安ければ利用したい」「学生向け料金や割引制度があれば利用しやすい」といった意見が多く出された。

また、現在いくら支払うのか分かりづらいとの声もあり、運賃表示の分かりやすさや支払い金額の明確化を求める意見があった。

【支払い方法について】

ICカードやキャッシュレス決済、スマホ対応など、支払いを簡単にしたいとの要望があり、高校生にとって、現金での支払いよりも電子決済の方が利用しやすく、バス利用へのハードルを下げることに繋がるとの意見があった。

【運行面について】

朝夕の通学時間帯の本数増、部活動後にも利用できる最終便の延長、バス停の増設、自宅から1キロ圏内へのバス停設置などの要望があり、特に、バス停まで徒歩20分かかる生徒からは、そこまで歩くなら自転車を利用するとの声もあり、バス停までの距離が利用を妨げる要因となっていることが分かった。

【車内環境について】

無料Wi-Fiの設置を求める意見があり、バスの中でタブレット等を使って勉強できる環境があれば、学生にとって利用価値が高まるとの提案があった。また、雨天時の大型車両運行、座席数の増加など、快適性に関する意見も出された。

【利用促進策について】

都城らしさを感じるラッピングバス、ロッテとのタイアップによる（コアラのマーチなど）ラッピングバス、アニメやキャラクターとのコラボ、SNS映えする外観・内装、スタンプラリーやポイント制度など、若者が「楽しく乗れるバス」にするためのアイデアが多く出された。高校生からは、バスを単なる移動手段としてだけでなく、地域の魅力発信や話題づくりの場として活用してはどうかとの提案があった。

【情報発信について】

各学校の掲示板にバスの時刻表を掲載してほしい、バス会社からの情報を学校にも知らせてほしい、バスの乗り方を解説してほしい、職場体験の機会を設けてほしいなどの要望があり、高校生の中には、便利なバスアプリの存在を知らない生徒もあり、既存のサービスが十分に周知されていないことも課題として見えた。

バス会社からは、利用者の減少や運転手不足が深刻な課題であることが説明され、宮崎県全体でのバス利用回数は年間700万から800万回程度である一方、都城市では約50万回にとどまり、運行には市からの補助が不可欠な状況であるとの説明があった。また、都城営業所では本来20名程度の運転手が必要であるものの、現状は18名で対応しており、

	指導者も運転手として勤務している状況が報告された。高崎観光バスからは、バスの小型化や県立高校向けスクールバスの運行、リアルタイムで運行情報を確認できる「バス予報」アプリの導入などの取組が紹介された。また、宮崎交通からは、スマホで乗車券を購入できる「マイルート」や、宮崎市限定で利用できる予約型サービス「ノルート」などの取組が紹介された。 議員側からは、学生の具体的な利用意向や希望運賃を把握するため、各学校や生徒会を通じてアンケートを実施し、その結果を市議会に提出してもらうことで、今後の政策提言や議論につなげてはどうかとの提案を行った。
そ の 他 (今後の課題・感想等)	今回の意見交換会を通じて、高校生には公共交通を利用したいニーズがある一方で、「知らない」「分からない」「時間が合わない」「高い」「使いにくい」といった複数のハードルがあることが分かりました。 特に、バスの乗り方や路線・時刻表の見方、アプリの存在など、基本的な情報が高校生に届いていないことは大きな課題です。 今後は、まず高校生に対する分かりやすい情報発信が必要であり、学校掲示板への時刻表掲示、学校を通じたバス無料デーやアプリの周知、バスの乗り方教室、SNS や動画を活用した案内など、若者に届きやすい方法で周知を強化することが重要です。 また、学生割引や定期券、チケット制など、学生が利用しやすい運賃体系についても検討が必要であり、現在は高齢者向けの割引制度はあるものの、学生向けの支援を求める声が多く、通学や図書館、塾、買い物など、若者の日常生活を支える移動手段として、負担軽減策を検討する意義は大きいと思います。 運行面では、朝夕の通学時間帯や部活動後の時間帯など、高校生の生活実態に合ったダイヤ設定が課題です。本数を単純に増やすことは、運転手不足や経営面から難しい現状があるため、利用ニーズの高い時間帯を把握した上で、重点的な運行や小型車両の活用、学校単位・複数校連携によるスクールバスのような運行の可能性などを検討する必要があると思います。 バス停の位置やアクセスについても課題があり、自宅からバス停まで遠い場合、バス利用の選択肢そのものが失われてしまうため、停留所の配置やレンタル自転車との連携、JR やタクシー等を含めた複合的な移動手段の整備も今後の検討課題であると思います。 さらに、公共交通の利用促進には、利便性だけでなく「乗ってみたい」と思わせる工夫も重要だと思います。ラッピングバス、地域企業やスポーツ・アニメとの連携、車内 Wi-Fi、ポイント制度、スタンプラリー、高校生との共同 CM 制作など、若者の発想を取り入れることで、バスに対する関心を高め、地域交通を身近に感じてもらうことができます。 一方で、バス会社からは、利用者減少、赤字運行、運転手不足、大型

	二種免許取得費用の負担、女性や若者が参入しにくい職場環境など、事業継続に関わる深刻な課題も示されました。公共交通を維持していくためには、利用促進策だけでなく、運転手確保、労働環境の改善、行政支援、地域全体で支える仕組みづくりが必要です。高校生からは、バス運転手の職業に関心がないとの声もきかれました。担い手不足解消のためにも職場体験等、高校生や若者に知ってもらう取組が重要だと思います。 今回の意見交換会は、高校生が地域交通の課題を自分事として考え、バス会社や市議会に直接提案する貴重な機会となりました。 高校生からは、単なる要望だけでなく、ラッピングバス、アプリ連携、Wi-Fi、アンケート実施、学校との連携など、実現に向けて検討可能な具体的な提案が多く出されました。 今後は、この意見交換を一過性のものにせず、各学校・生徒会を通じたアンケートの実施等、高校生との意見交換の継続、バス会社との連携も図り、持続可能な公共交通のあり方を考え、推進していきたい。
--	---

※「委員会テーマ」型については、実施後の報告は本報告書によらない。（所管事務調査による）